



新しい医系科学研究科に来たれ！

栗井 和夫

医系科学研究科
副研究科長(教育担当)

2019年4月に新たに医系科学研究科が発足しました！

本研究科の売りは、一言で言うと、研究科内あるいは他研究科の連携を強力に推進して研究および教育を行うことです。これにより、自分の領域の殻に閉じこもらないグローバルな視点を持つ優秀な研究者の養成を目指しています。

既に、医系科学研究科の中では、「がん・ゲノム医療」、「脳・神経科学」、「再生・免疫・感染・アレルギー」、「老化・高齢者医療・生活習慣病・社会医学」、「発生・発達・成長期医療」の5つの学際的研究推進部会が活動を開始しており、基礎と臨床、あるいは異なる専攻の研究室との連携が取りやすい体制になっています。また、同じ生命科学を扱いながらも従来はあまり交流がなかった統合生命科学研究科(東広島キャンパス)とも連携を強力に進めており、これにより今までになかったような新たな視点の研究が生まれることも期待されます。

他の領域では当たり前になっている手法でも、自分の領域ではほとんど知られていないようなこともしばしばあります。例えば、私の専門の画像診断の領域でも、CTやMRIの造影剤の投与プロトコールは、従来は経験的に決められるのが普通でしたが、近年は薬理学的コンパートメントモデルやフーリエ変換等の数学的手法を応用することにより造影剤の体内動態についての知見が飛躍的に増加し、極めて合理的な造影剤投与が可能になったような事例もあります。

現在、大学院に進学するか否か迷っている方は、深い専門性を追求しつつも他分野とも連携が容易な医系科学研究科で、是非、研究者としての第一歩を始めましょう！



新しい医系科学研究科で革新的研究成果を期待

田原 栄俊

医系科学研究科
副研究科長(研究担当・基金担当)

平成の医歯薬保健学研究科から令和の医系科学研究科に改組されました。この新しい年号とともに大学院も機能強化のための組織改変で、教育においてはより高度かつ魅力的な教育につながるもの、研究においては広島大学の新たな特徴となる革新的な研究の創出につながるものを期待します。これまでと大きく異なることは、

これまで広島大学が培ってきたものはこれまで以上に推進するのは当然のことですが、新しい広島大学の特性を見いだす研究の開拓、これまでに無い研究成果が期待される異分野融合、アカデミア間のみならず産業界との多彩な共同研究の推進による社会還元の見える化、国外の大学や研究機関との積極的な連携推進によるグローバル化など、より高度かつ新しいアイデアを生みだせる組織となるよう新たな革新を目指していきます。医系科学研究科では、研究担当の副研究科長を担当させていただきますが、本年4月より産学連携の副理事も拝命しております。基礎研究から応用研究にいたる研究担当のみならず、大学での研究成果を産業界へとつなげる役割にも力を入れていく所存です。100年後にも世界で光り輝く大学を目指す広島大学は、日々その種となる研究成果を出し続けて社会還元まで結びつけることが持続的な光につながると信じております。また、研究成果のみならずそれらを持続させる人材育成に力を入れていく必要があると考えます。一つの研究成果は、すばらしい「人」により成り立つものであり、その革新的な人材育成も本学から発信していくことが重要と考えています。皆様のご協力を宜しくお願い申し上げます。